

フランス パリ政治学院 ヨーロッパの一大結節点 パリでの留学生活

一橋大学海外派遣留学制度を利用し、2022年夏から2023年春にかけてフランスに滞在していた。初海外、初一人暮らし(しかも下宿先は治安のやや悪いとされる区域)だったので日々目にするもの全てが新鮮だった。派遣先のパリ政治学院(通称Science Po)で政治学を学ぶ傍ら、路上生活者への食料配布ボランティア団体に所属したり、ヨーロッパ中を旅したりと、様々な物事に積極性を以って取り組んでいた。



パリの夕日と街並み[著者撮影]

出会いと発見の9か月間

ヨーロッパのハブであるパリで多様な人種や文化に触れてみたい、フランス独特の教育機関グランゼコールで学んでみたい、という思いから留学先を決めた。パリ政治学院では英語の授業が多く開講されており、たとえフランス語力が無くてもあまり問題はない(一橋学内選考通過のためには必要)。その分、語学の授業や日常生活、ボランティア内でフランス語を使い、上達に努めていた。

留学を通しての最大の収穫は、何と言っても多様な人々との出会い・交流機会であったと感じる。具体的には帰宅中の電車で道を聞いてきたエストニア人旅行客に数か月後タリン(エストニアの首都)を案内してもらったり、フィレンツェの大聖堂で出会った日本人ご夫婦が小学校の大先輩だったりした。世界の広さと同時に、思いがけないところで繋がりが生まれるという世界の狭さを肌で感じる事ができた。

また、留学生活は、社会に対する感度を大幅に向上させる貴重な機会ともなった。パリ政治学院では、国際色豊かなクラスで、EU制度やヨーロッパにおけるユダヤ人近代史など、国際社会に対する理解を培った。日常生活では、パリ滞在期間が年金制度改革の時期と重なり、街全体がストライキで揺れていた様子を目の当たりにしていた。「不満に声を上げる」人々の強い意志に感銘を受けた。単なる知識・教養の習得に留まらない、社会の一構成員としての責任について考えるようになった。

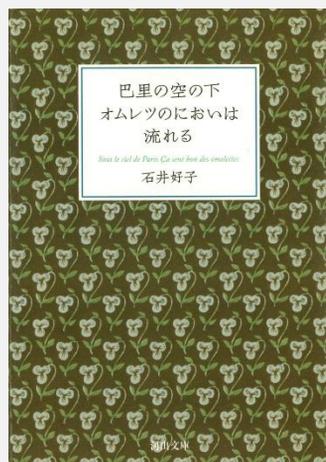
ヨーロッパ大陸のL'Hexagone(六角形)

西ヨーロッパに位置し、六角形の国土を持つ共和制国家。パリはファッション、美食、芸術の都として人々を魅了し、他の地域においてもそれぞれ多彩な文化、自然環境を持つ。世界第6位の経済大国。また、ストラスブールには欧州評議会、EU議会、欧州人権裁判所といったEUの重要機能が置かれている。



オペラガルニエ内部[著者撮影]

オ ス ス メ の 一 冊



巴里の空の下オムレツのにおいは流れる 石井好子著（河出書房新社，2011年）

【請求記号】5900:128

シャンソン歌手・石井好子さん(1922～2010)による、1950年代のパリ滞在記。もちろん半生記以上前のパリの描写は現状にそぐわない箇所が多々あるが、美味しそうな食べ物との描写と共に、この街の魅力を味わえる大好きな一冊。

執 筆 者 紹 介

うみ／社会学部社会学科

広くアート鑑賞を通して、他者の持つ世界・社会への視点について考えることが大好きです。EU学生はヨーロッパ内の多くの美術館に無料で入場できるので、パリ滞在中は暇さえあれば美術館をふらふらしていました。

